

1月もあっという間に後半です。冬休みの生活リズムを学校生活のリズムに戻すことはできましたか？ 身体の調子と同様に、人権感覚もまた、磨き直していきたいですね。

今回のテーマは「ハンセン病問題」です。1年生は2学期の『公共』の授業のなかで、2・3年生は、1年次の『現代社会』の授業の中で学習しました。復習してみましょう！



◎ 「ハンセン病」とは？

ハンセン病は、「らい菌」による感染症で、この細菌を発見した人の名前をとって「ハンセン病」と呼ばれています。次のQ&Aに正しく答えることができますか？

Q1. 感染力は？	A. { ①きわめて弱い ・ ②きわめて強い }
Q2. 有効な治療薬は？	A. { ①治療薬があり完治する ・ ②治療薬はなく完治しない }
Q3. 回復した方に接触したら？	A. { ①感染しない ・ ②感染する }

⇒答えは、いずれも①です。

現在では有効な治療薬があり、早期に治療すれば身体に障がいが残ることはありません。また、治療した後に残る変化は後遺症に過ぎず、回復した方に接触しても感染することはありません。遺伝することはありません。

しかしながらハンセン病は、感染した人やその家族に対する差別や偏見が根強く残っている人権課題の一つです。なぜ、差別や偏見はなくなるのでしょうか…？

◎ 「ハンセン病問題」とは？

<誤った政策による影響>

ハンセン病に対して有効な治療薬がなかった時代に、国は、「らい予防法」にもとづいて、感染者を強制的に「療養所」へ入所させる政策をとっていました。入所させられた人たちは、結婚や妊娠を望んでも不妊手術・中絶手術をさせられたり、療養所で反抗的な態度をとった場合には“重監房”へ閉じ込められたりするなど、人権を無視した酷い扱いを受けます。この政策は、1996年に同法が廃止されるまで続き、その間、社会に「恐ろしい病」や「不治の病」といった誤った認識を広めたと指摘されています。

元患者の方々は、自らの人権を回復させるため、国へ損害賠償を求める裁判を起こします。2001年には、熊本地方裁判所によって「隔離政策は憲法に違反する人権侵害であり誤った政策であった」ことが認められ、また、2019年には、患者の家族も差別を受けたとして、国の責任を認める同裁判所の判決が下されました。

<その後は>

その後、国は「ハンセン病問題基本法」などによって、患者や元患者の方々に対する医療・社会復帰の支援、名誉回復のための取り組みを進めています。しかし、療養所に入所したまま故郷へ帰らない(帰れない) 方々が今なおいらっしゃいます。その理由は…

①入所している方々の高齢化 と ②差別や偏見が残っていることに対する不安 です。

幼い頃に家族と引き離され、その後、家族と連絡がつかない方や、故郷であるにも関わらず生活の基盤がないため長く暮らすことができず、療養所に再び入所したという方もいらっしゃるそうです。

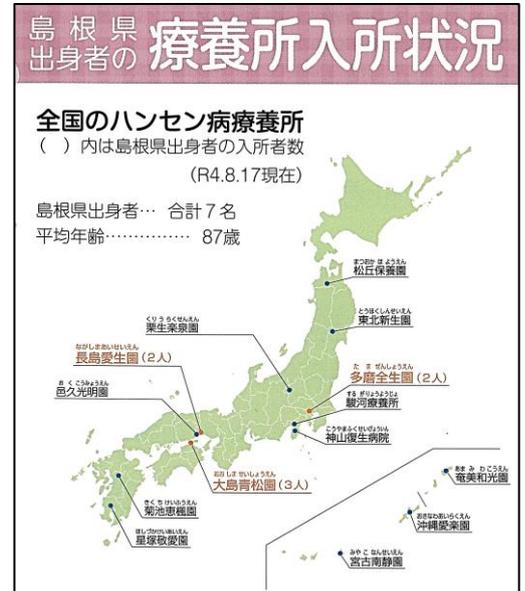
島根県には、『正しいハンセン病の知識の普及』や『ハンセン病療養所入所者およびその家族に対する支援』などを目的として事業をおこなっている協会があります。

それによると、

○各地の療養所に入所している島根県出身者は7名

○その平均年齢は87歳

ということです(R4.8.17現在)。



(島根県藤楓協会リーフレットより)

◎私たちに出来ることは？

1年生『公共』の感想を紹介します。自分にできることは何か、改めて考えてみて下さい。

- ☞ ハンセン病はうつりやすい病気という考えをまだ持っている人がいるとしたら、自分たちの世代が正しい知識を持ち、誤った考えを減らす必要があると考えました。
- ☞ ハンセン病患者への偏見や差別が今のコロナ禍でのできごとと似ている、この問題が特に身近に感じられた。
- ☞ ハンセン病の療養所などへ行き、直接話を聞いてみたいと思った。実際にかかった方だから辛かったことがわかると思う。かかったことがないからこそ知るべきだと思った。

【参考】島根県藤楓協会 事務局「令和3年度事業報告『里帰りの旅』リーフレット」、法務省 MOJ チャンネル『家族で考えるハンセン病』YouTube 動画、浜島書店編集部『最新図説 公共』(浜島書店) ほか

<人権教育推進委員の先生からのメッセージ>

◆保健部長：山岡先生より

長島愛生園での見学を終え、邑久長島大橋を渡る途中、ここで知り得た様々なことを多くの人に伝えなければいけないことを実感しました。

◆養護教諭：和田先生より

障がいのある生徒をからかった生徒を保健室から追い出し、出入り禁止にしたことがあります。人には言っていないことと悪いことがある。お互いを尊重すること、それは自分を大切にすることにつながると思います。

<この便りは持ち帰り、家庭等で「人権」について語り合うきっかけにしてください。人権教育推進スタッフ：森脇>